

## 新聞記事データベースの利用法について：クレジット問題を例として

香蘭女子短大 後藤直子

目的： 現在、パソコンによるデータベースの利用により様々な資料が瞬時に取り出せるようになった。本研究では、現在問題とされているクレジットや自己破産の実態を例に、新聞記事検索を利用して、多量の記事の中から取捨選択整理をして、容易かつ簡単に、一つの情報として提供でき、併せ講義および研究に利用できるものかを検討した。

方法： データベースとして、日経ニュース・テレコン、Bメニュー記事検索、新聞一括検索（新聞社8社より取り上げた）を利用した。検索期間は、1991年1月～9月および1992年1月～9月を対象とした。検索方法は、キーワードによる検索とした。得られた検索結果について情報を整理し種々の角度から検討した。

結果： 検索の結果、次のようにまとめられる。問題によっては、新聞記事の題名や件数のみでも充分問題内容の把握ができ、興味深い結果が得られる。借りる側・貸す側の問題点の指摘、発行枚数の伸び、自己破産の実態と原因・行程・対策等の具体的事例が検索結果として得られ、これらの内容を整理し繋ぎ合わせ構成することによって、詳細な情報の提供が簡単にでき、誰でもがクレジット問題の知識を得ることが可能であることが明らかとなった。また、得られた結果を利用した講義における学生の反応として、新聞で取り上げられている生の情報だけに、より身近に感じて大いに関心・興味を示した。以上の結果から、新聞記事データベースの利用は、短時間で多量の新鮮かつ同系統の情報が得られ、講義、研究に有用な道具の一つとなるといえる。